

日本風景街道だより

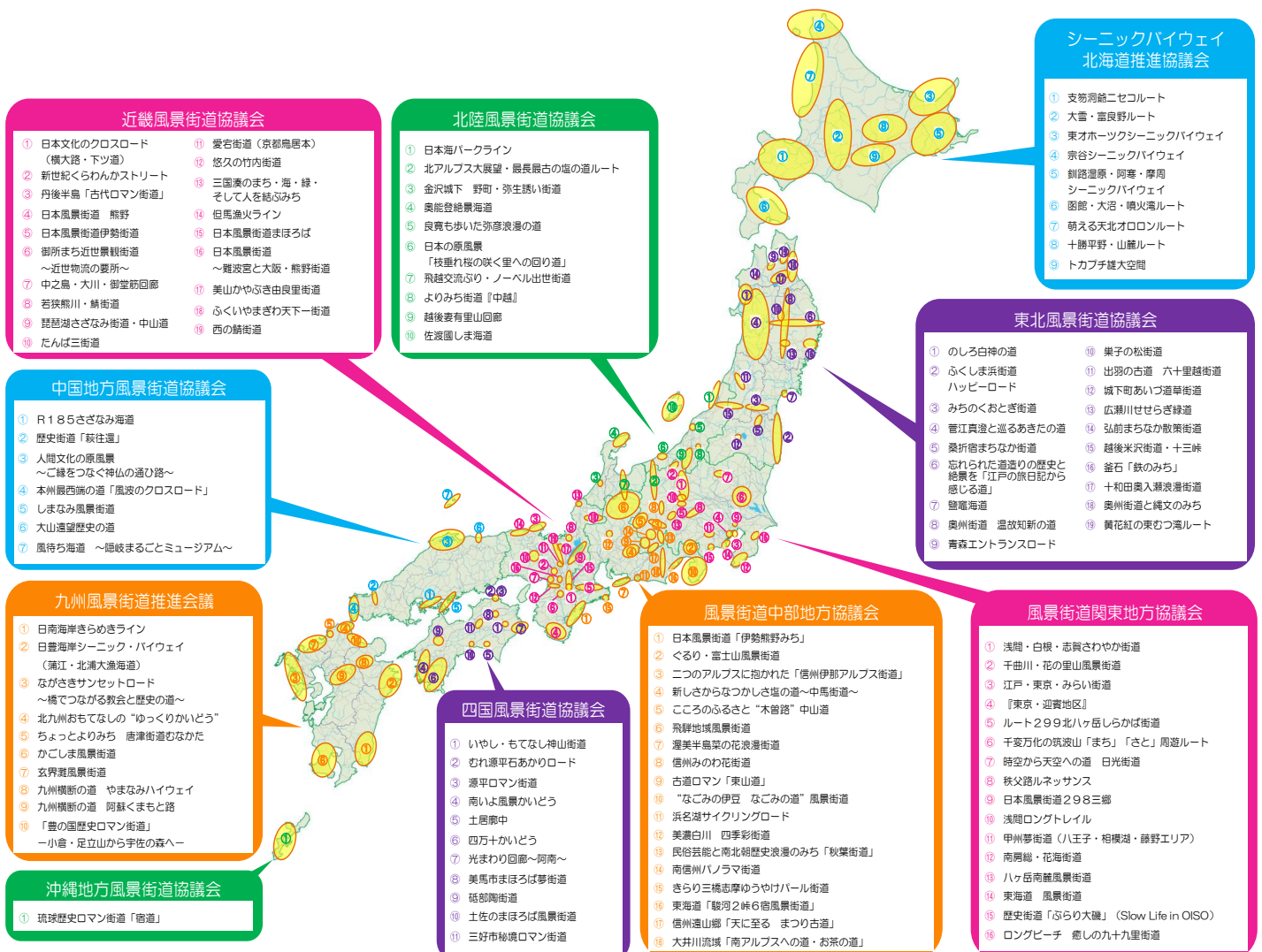
2011年 春 Vol. 15

全国で120の風景街道が登録

これまでに全国で120の風景街道が登録されました(平成22年11月末現在)。

なお、登録された各風景街道の概要は、日本風景街道ホームページ

(<http://www.mlit.go.jp/road/sisaku/fukeikaidou/index.html>)、もしくは各風景街道地方協議会ホームページで閲覧することができます。



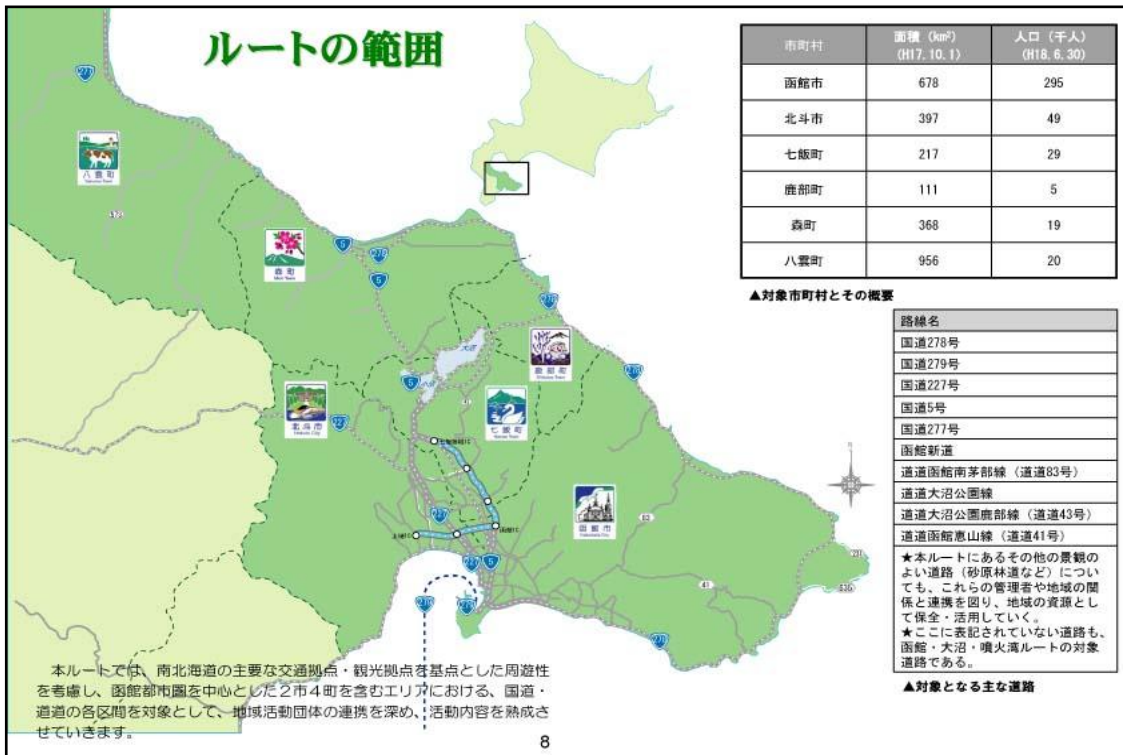
シーニックバイウェイ北海道 函館・大沼・噴火湾ルート

1. ルートの概要

本ルートは、函館山と西部地区の歴史的街並み、津軽海峡の漁り火が美しい湯の川温泉郷、美しい自然に囲まれ、自然体験のプログラムを充実させている大沼周辺、北海道遺産にも指定されている内浦湾沿いの縄文文化遺跡群など、多彩な景観資源・地域資源を有する地域です。そして、都市景観から農村景観、漁村景観までを幅広く網羅していることから、それぞれの個性を発揮し、絆を深めていくことが大切と考え、本ルートを「函館・大沼・噴火湾ルート」と命名しました。

サブテーマである「人と人をつなぐ道」は、ルートの活動を実施するためには「人」が必要不可欠であり、活動を取り組む中で地域が道を通じてつながっていくという思いを込めて設定しました。また、「道」を通じて互いに連携を深め、学びあいながら、これから続いていく未来への小径（こみち）をゆっくり歩いていくという思いで、ルートストーリーを「未来への小径（こみち）をゆっくり歩いていく」と設定しました。

本ルートのエリアは、函館市・北斗市・七飯町・鹿部町・森町・八雲町の2市4町から構成されており、参加活動団体29団体（平成23年4月1日現在）で構成されるルート運営代表者会議を設置し、行政機関等によって構成されるルート運営行政連絡会議と連携を図りながら活動を実施しています。



■ 函館・大沼・噴火湾ルート概要図

2. 平成22年度の活動内容

本ルートは、前述の通り29団体から構成されているルートであり、個々の活動も活発に行われていますが、ここでは、ルート内で連携している2つの取り組みについて紹介します。

(1) シーニック de ナイト

本ルートは、平成18年11月にシーニックバイウェイルートに指定されました。そこで

指定記念事業として、平成 18 年 12 月から、「シーニック de ナイト」という活動を始めました。この活動は、減少する道南圏の観光活性化、冬期観光ブランドの創出と定着、活動団体間の連携強化を目指し、函館市や大沼などの国道及び道道沿線を中心に、活動団体と行政機関等が連携して、手作りのワックスキャンドルを設置点灯するイベントです。ワックスキャンドルのほのかな灯りで、道行くドライバーや観光客をおもてなしの心で迎えるものです。

平成 22 年度は、平成 23 年 2 月 1 日から 13 日まで、函館市地域交流まちづくりセンター、南茅部公民館、西部地区赤レンガ倉庫群、旧戸井線、函館新道（以上函館市）、大沼国立公園（七飯町）の計 6 箇所を実施しました。

設置点灯するキャンドルは全て手作りで、函館市の著名な観光施設である五稜郭タワーの 1F アトリウムで行いました。作業は函館市内の観光施設に手作りのワックスキャンドルを設置点灯する「光の小径」の主催者である、はこだて冬フェスティバル実行委員会とシーニック de ナイト実行委員会との連携による合同製作体験会として 3 回実施しました。

製作にあたっては、これら実行委員会のメンバーだけではなく、観光客や函館市民の方などが数多く参加して行われました。この体験会で製作したキャンドルは、「シーニック de ナイト」と「光の小径」の両イベントで使用しました。



▲シーニック de ナイト in 函館新道



▲シーニック de ナイト in 西部地区赤レンガ倉庫群

また、シーニック de ナイト実施時期に合わせ、シーニック de ナイトの鑑賞と地域の食や体験、文化等を組み合わせた着地型観光バスツアーを企画し実施しました。そのひとつである、2 月 5 日（土）に実施したバスツアーを紹介します。ツアー概要は、函館を出発し七飯町大沼に向かい、わかさぎ釣りを体験した後、駒ヶ岳を見渡せる湖畔にあるレストランで地域の食材を使用した昼食を頂き、その後日暮山でスノーシュー体験、最後に大沼国立公園内で実施したシーニック de ナイト 2011 鑑賞をして函館に戻るといった内容です。ツアー時間は 10 時半から 19 時半までの内容で約 20 名の参加を頂きました。



▲日暮山山頂での記念撮影



▲シーニック de ナイト in 大沼国立公園

(2) シーニックの森づくり

シーニックバイウェイ北海道では、2005年度よりCO₂削減に配慮したエコツーリングの提案や、ドライブ観光の際に排出されるCO₂を植樹によって埋め合わせる「カーボン・オフセット」に取り組んできました。この取り組みの一環として「シーニックの森」づくりを2008年度からスタートしております。シーニックバイウェイ支援センターが認定した「シーニックの森」で、北海道を訪れた観光客の皆さんに植樹費用を負担して頂き、ドライブで排出されたCO₂を植樹によりオフセットしてもらおうというものです。植樹を通じて地域とのふれあいや関心を深めるとともに、ドライブで排出しているCO₂を樹木がどれぐらいの期間で吸収するか実感を持って認識頂くことで、環境に配慮したドライブ観光を目指しています。

当ルートでは、2009年度にシーニックの森第4号として「きじひき森林公園の森」が認定されました。当ルートで実施するシーニックの森づくり事業は、シーニックバイウェイ支援センターの理念に、「人為的な開発以前の潜在的な植生を基本に自生種を活用する」という当ルート独自の項目を追加し、活動を実施しています。具体的に説明すると、植樹する苗木をどこから購入してくるのではなく、きじひき森林公園がかつてどのような森であったかを想定し、その森に再生させるためにはどのような苗木を植樹すべきか検討した上で、苗木を付近の森から山取し、仮植という作業を経て植樹を行うものです。当ルートでは、自然観察会の活動と絡めた直接植樹やシーニック de ナイト鑑賞バスツアー等により排出されたCO₂をオフセットする代行植樹による森づくりを行っています。



◆苗木の選木



◆直接植樹&代行植樹

3. おわりに

平成22年度には、上記の他に観光地や人が多く集まる場所を中心に4月29日（当ルートではシーニックの日に制定）に一斉に実施している「シーニック清掃活動」やルートの情報共有や交流促進、ルートのあり方などを検討する「ルートミーティング」といったルート連携活動を実施しています。今後も、地域や人との更なる連携を図りながら、継続した活動を中心にさらに拡大していけるよう、楽しみながら活動していきたいと思っております。

【執筆者】

シーニックバイウェイ北海道 函館・大沼・噴火湾ルート運営代表者会議
会長 金道 太朗（かなみち たろう）

シリーズ:各地域の風景街道の取り組み

道を地域ブランドとして発信する試み 東海道駿河 2 峠 6 宿風景街道

静岡二峠六宿街道観光協議会 事務局

NPO 法人地域づくりサポートネット 副理事 高木敦子

●きっかけは「道のエコミュージアム」の創設から・・・

地域づくりサポートネットでは、静岡国道事務所との協働事業として、平成 15 年度から道を題材に自分達の地域のことを自ら考え、行動する人材を育成するエクスカッション方式の講座「道のコミュニティカレッジ」を実施してきました。年に数回開催する本講座は、募集開始からわずか半日～数日で定員を満了し、キャンセル待ちがあるなど大変好評なプログラムでした。複数回参加するヘビーユーザーに参加理由を聞いたところ、「ハードを題材に地域の歴史、文化と同時に町づくり等を学べるプログラムはほとんど体験したことがなく、非常に面白い」とのことであり、このようなプログラムを求めるニーズが高いことが分かりました。そこで、平成 19 年度に宇津ノ谷峠において「いつでも誰でも道から学べる仕組み」として「道のエコミュージアム(以下道エコM)」を立ち上げたのです。

●道エコMの発展版！東海道駿河 2 峠 6 宿

静岡市は近年の合併で、東海道 53 次の宿場のうち 6 宿(蒲原・由比・興津・江尻・府中・丸子)と難所で有名な薩埵峠、宇津ノ谷峠(西側は藤枝市)を含む市となり、それと同時に約 490 km の旧東海道のうち約 40 km の一番長い距離を有する市となりました。これをきっかけに「東海道駿河 2 峠 6 宿(以下 2 峠 6 宿)」という道の地域ブランドを確立し、東海道を活かした町づくり意識を市民が持つために道のエコMの概念を展開することを目指したのです。

●平成 20 年度「まちめぐりナビプロジェクト」に応募し、基本的な仕組みをつくる

「東海道駿河 2 峠 6 宿」という道の地域ブランドを確立するためにはそれらをつなげていく仕掛けが必要です。その仕掛けを「駿河歩人」として、平成 20 年度国土交通省「まちめぐりナビプロジェクト」に応募し、実験事業として実施しました。駿河歩人は、2 峠 6 宿を歩き、魅力的な地域遺産を体験、理解し、またお金も落とし、地域を支えるファンになってもらうことを目指しており、そのためのさまざまなツールを確立していくものです。

まずは、認知度のほとんど無い 2 峠 6 宿を発信するための広報ツールです。これは、チラシ・ポスター、ホームページ等であり、また 2 峠 6 宿を総括的にみることができるパスポートを作成し、各宿場や峠のアクセス、広域マップ、特典のある施設やお店などを掲載、スタンプラリーもできるようにしました。次にナビツールです。これには『物ナビ』と『人ナビ』を設定し、『物ナビ』のひとつとして、各宿場や峠を散策するために必要な情報を入手できる情報拠点を設置しました。この情報拠点は、土日、祝日にオープンができて、誰でもいつでも情報を入手できる施設として公共、民間を問わずに募集し、現在各宿場には 1 つ以上の情報拠点が設定されています。また、解説マップは、各地の定番コースにコースの見所、距離、休憩所、アクセス等を掲載しました。『人ナビ』は、各地域で活動する案内人等のボランティアガイドを行っている団体と連携し、案内人との散策を希望する人に答えられる仕組みを確立しました。



蒲原宿の情報拠点である志田邸:わらじと靴のマークが目印
このマークは道エコ運動に賛同した世界的なグラフィックデザイナーが作成しています



丸子宿の情報拠点 しらい酒店:物ナビのディスプレイ

●地域の色々な分野の人が連携しつくり上げる

これらの仕掛けは、協議会のメンバーが各分野ごとに部会をつくり検討しました。

ナビシステム・パスポート部会では、旅行会社、バス・鉄道会社、観光コンベンション協会、商工会議所等の専門家が話し合い、駿河歩人の基本的考え方や方針を検討していきました。

案内人システム部会では、各宿場・峠でガイド等の活動を行っている団体が参加し、情報拠点の場所や案内人の条件設定、そして各地域の解説マップの作成などを行いました。マップは今までの活動の中から参加者に好評であったコースを踏まえ設定し、見所ポイントなどを整理しています。

対象者別コンテンツ部会は、郷土史家などの歴史の専門家が一般的な見所以外で地域独自のコアな見所や事象についての情報を整理し、小話としてホームページ等に掲載しました。

さらに、外国語案内システム検討部会では、在静外国人の方に集ってもらい、まずは東海道等の日本の歴史を学ぶ座学から始まり、現地見学会を実施した後、これらの素材を外国の方にどのように伝えるのが望ましいのかを検討してもらい、韓国語と中国語のパンフレットを作成しました。

各宿場のガイドのみなさんとルートの設定作業



●社会実験が終わり、市民、行政への発信の年である21年度

国土交通省「まちなみめぐりナビプロジェクト」の社会実験事業は無事終了し、骨格が出来上がり、ここからが正念場です。進めていくためには、静岡市のなかで「東海道駿河2峠6宿」が観光施策として位置づけられ、継続的な推進と「2峠6宿」という言葉の定着が不可欠です。そこで「日本風景街道」に登録していくことにしました。協議会には各宿場のボランティアガイドの団体に参加してもらっています。日本風景街道を説明する際「日本風景街道とは国がすばらしいと認めた道の認定であり、県内では富士山、伊豆、浜名湖が登録され、2峠6宿がそれに次いで登録された」というのは大きなインパクトで、各団体がそれぞれの地域住民に説明するには分かりやすい事柄です。



さらに町歩きが観光施策となり、交流人口の増加、経済波及効果が高いことを発信するため、「地域の資源を活かして町を歩く」を題材にしたフォーラムを開催しました。フォーラムの講演には、「町歩き」を市の施策としてまちづくりを進め、観光入込客数も増加し、市民のふるさと意識の醸成、地域の活性化にも大きく寄与している「長崎さるく」を職員時代に企画し、市長になってからも推進している田上長崎市長にお越しただいて講演をお願いしました。また、身近な目に見える整備として、宇津ノ谷峠の朽ちている看板の撤去、差し替えや倒木の除去などを行い、できることから行っていくという姿勢を構成団体と一体的に進めました。これらは中部建設協会のNPO助成金などで進めました。



宇津ノ谷峠の方向指示看板の設置

また、こういった活動は、行政をはじめ地元で活動する団体、企業、観光関係者等多様な人々の支援が必要です。地域だけが頑張るのではなく、地域遺産をとともに支えるパートナーとして、道を利用する人からも協力をお願いすることを目指していきたくため、各情報拠点で設置が可能な場所に募金箱を置き、利用する方から募金をお願いし、運動資金としています。

●色々な協働が生まれた22年度

東海道という財産をどのように活かしていくのか藤枝市の街道・文化課と静岡市観光シティ・プロモーション課、そして協議会との話し合いが夏ごろから持たれ、それぞれの立場を理解したうえでの協働事業が立ち上がりました。両市が接する宇津ノ谷峠を中心にした各施設を巡るスタンプ

地元の方々とのお会合



ラリーを2月1日から2月27日まで行い、ゴールとなる景品交換を丸子宿の祭り会場に設けるとともに、2峠6宿として各宿場が特産品等を出品し実施しました。

高齢化により峠の管理がままならないという地元の声を受けて、中心商店街で「かっこよくごみ拾いをする」若者グループ、グリーンバードに声をかけ、宇津ノ谷地区まちづくり推進協議会と本協議会の合同で草刈事業を実施しました。はじめて宇津ノ谷峠を訪れた若者もいたことから、簡単な峠の歴史の説明を行い、地元の方からカマの使い方などをレクチャーしてもらい作業を進めました。若者からは「こんな所が静岡にあったとは気が付かなかった」等々の感想があがっています。さらに、駐輪場の中にあるような史跡と観光客から不評であった「山岡鉄舟、西郷隆盛江戸城無血開城の会見史跡」は、市からの浄財を有効に使うよう地元自治会、ビル管理者、協議会と話し合い、それぞれができることを行い修景事業を進め、見事生まれ変わり、立ち止まる人が増えています。

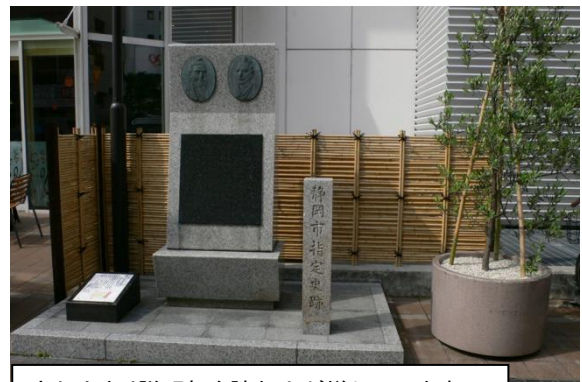


盛況だったスタンプラリーゴール



草刈後の記念撮影

訪れる散策者から全てのマップが1つになったものの要望が高いことから、募金と企業からの協賛金で、10種のマップや宿場や峠の魅力をまとめた冊子(パスポート)を作成しています。



立ち止まり説明板を読む人が増えています

●さらなる発展を目指す23年度

ルートの設定、情報を得られる拠点の設置、散策するためのマップの作成、迷わないための簡単サインの整備、道の美化活動等、市民団体ができる範囲で実施してきましたのですが、これは訪れる人にとっては、あたり前にあることです。

たくさんの選択肢のなかから静岡を選んで来てもらうためには、地域の歴史や文化など特性を活かしたテーマに沿った散策ルート、宿場の名物料理や特産品、または体験など他の地区にはない、あるいは体験できない、ここだけの魅力があることが大切です。静岡にはその素材がたくさんあるのです。それを道エコMという視点で地元の人たちと磨いていくことにより、市民のふるさと意識が醸成され、それが地域の活性化、交流人口の増加に結びつくと思います。今後、「静岡にしかない魅力づくり」を一步ずつ進め、静岡にしかできない町歩きを展開していきたいと思っています。

また、色々な組織が連携していく動きもでてきました。静岡市が徳川家康公のお膝元である府中宿の見付サイン(宿場の入口を意味するサイン)の設置を計画しているのですが、現在の見付の場所は住

宅が混在し設置場所がない。国道1号沿い国の管理地への整備の話が進められています。市民にとっては大変喜ばしいことです。それぞれの団体が協力しながら、2峠6宿の魅力を高めていく、この動きが地域にとっての財産となり、それが進むことにより道における地域ブランドが確立されていくのではないかと考えています。今後、異なる組織がさらに協働していく動きに期待したいと思っています。

シリーズ：社会資本整備総合交付金の活用事例

「案内看板の整備、ライブカメラの設置、沿道公共施設のバリアフリー化」

ルート名：奥能登絶景海道 [石川県珠洲市]

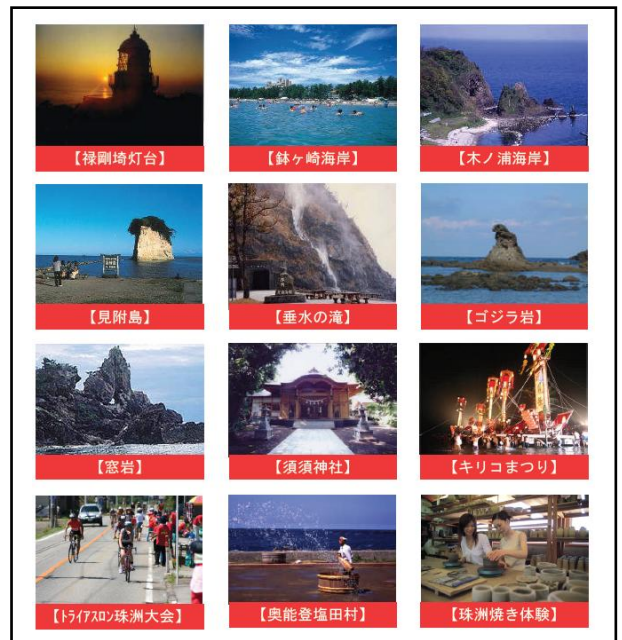
1. 奥能登絶景海道の紹介

「北陸第4号 奥能登絶景海道」は石川県珠洲市を中心として風向明媚な景観や豊かな自然環境、歴史、風土を活かしながら、奥能登の観光支援や交流促進、地域コミュニティの再生に向けたまちづくりの推進を目的として活動しています。

石川県珠洲市は能登半島の最先端に位置し、断崖地形からなる勇壮な外浦と対比的に波穏やかな内浦に囲まれ、その海岸線を結ぶ国道249号、主要地方道大谷狼煙飯田線の沿線には、能登半島国定公園をはじめとする多くの観光資源が存在しており、毎年、多くの観光客が訪れます。



(活動エリア)



(主な地域資源)

2. 地域の課題と目標

近年、能登空港開港や東海北陸自動車道の全線開通、また能越自動車道のインフラ整備が進んでいます。平成26年度には、北陸新幹線の開業が予定されており、首都圏・中京圏からのアクセスが大きく改善し、観光客の増加が見込まれます。

珠洲市の主要観光地には、能登半島国定公園に指定されている園地があり、また、海水浴場として多くの観光客が訪れます。しかしながら、昭和60年代に整備された公衆便所はバリアフリーや多目的対応型になっていないため、高齢者等に配慮した環境整備を行う必要があります。また、来訪者がストレス無く観光地を満喫できるよう、分かりやすい交通サインの整備、珠洲市の魅力を広く情報発信することが必要です。今後、珠洲市を訪れた観光客がスムーズに巡ることができるよう環境を整備していく必要があります。

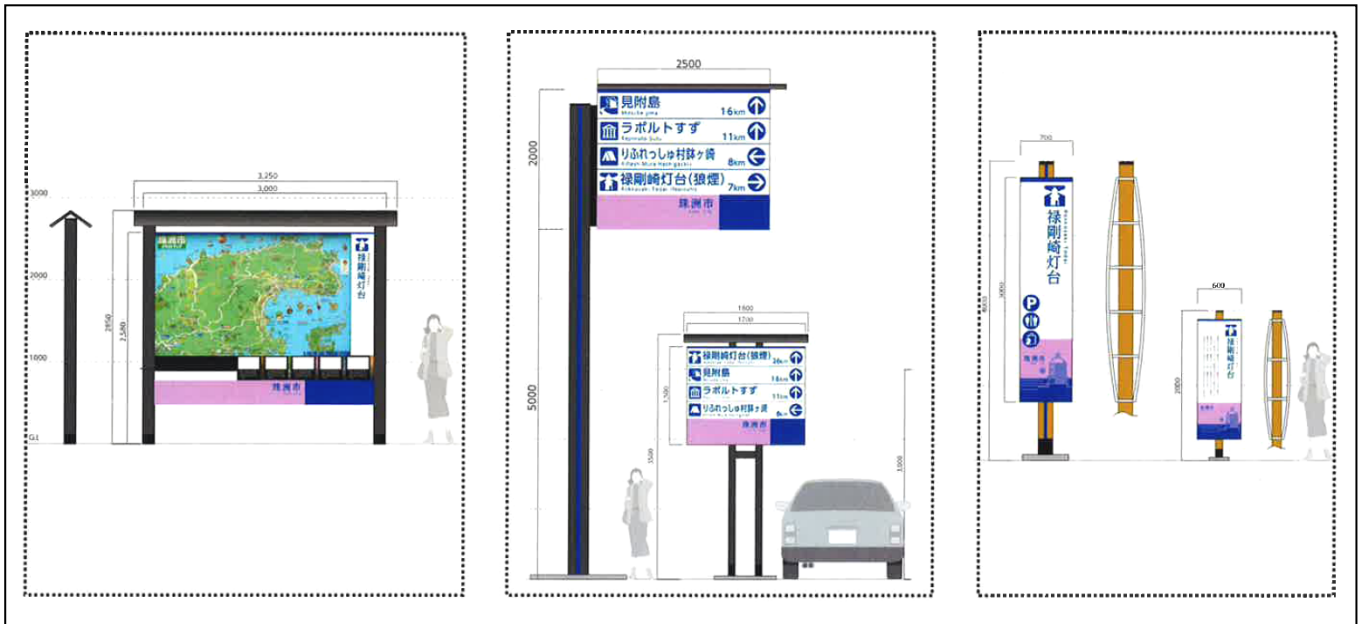
3. 取組み内容

■ 「観光拠点施設誘導案内看板整備事業」

(案内サイン)

(誘導サイン)

(名称サイン)



市内各地に、観光拠点施設への誘導案内看板を設置します。平成22年度は誘導サイン5基と名称サイン2基を設置しており、平成23年度も継続して設置を検討していきます。

- 案内サイン : 市内の主要観光地に設置。
- 誘導サイン(大): 主要道路の分岐点に設置。
- 誘導サイン(中): 主要道路の分岐点から観光地への誘導として設置。
- 名称サイン : 各観光地に設置。

■ 「観光案内情報提供システム整備事業」



奥能登絶景海道ルートや周辺地域のビュースポット5箇所に、リアルタイムに画像閲覧できるWebライブカメラを設置します。

その映像は、インターネットを通してタイムリーな地域情報として提供します(『すず観光ナビネット』で紹介する予定です)。また、市外にもその魅力を広く情報発信し、能登半島先端への誘客と交流人口の拡大を図ります。

平成22年度に5基を設置し、事業が完了しました。

【事例紹介】 日本風景街道パートナーシップの 被災者支援、震災復興の活動、寄付について

この度の東日本大震災により亡くなられた方々に哀悼の意を表しますとともに、被害に遭われた皆様にお見舞いを申し上げます。

大震災の被災者に対し、自発的に様々な被災者支援や震災復興の活動をされている方々に心より敬意を表します。

今般、全国各地から被災地に対し様々な支援活動が行われておりますので、ごく一部の事例ではありますが紹介いたします(5月23日時点)。

今後、追加等がございましたら末巻の風景街道地方協議会の連絡窓口までご連絡をお願いします。

(注1) 支援活動概要欄の凡例: ○は、すでに活動しているもの、△は、検討中のもの、()書きは、実施時期を示しています。

(注2) この表は主な活動事例として取りまとめしており、パートナーシップの皆様が行っている被災者支援活動等のすべてを網羅しておりませんことをご承願います。

5月23日時点

ルート名	支援活動の概要(予定含む)		連絡先(担当者名)
	活動	寄付	
大雪富良野ルート	△被災児童の受入 旭川西神楽地域に被災した児童(家族)の受け入れを実施予定。現状で受け入れ出来る資金・体制が出来ており、今後受入予定。		0166-75-5305 グランドワーク西神楽 (谷川・成田)
函館・大沼・噴火湾ルート	○【被災地の子どもたちへ絵本を送ろう!】函館プロジェクト ご家庭にある絵本や児童書を被災地の子どもたちに送り届ける。		0138-22-9700 函館市地域交流まちづくりセンター (センター長 丸藤 競)
黄花草の東むつ湾ルート	○「リフレッシュ ボランティアinボランティアセンター石巻専修大学」と題し、避難所にも指定されている石巻市の石巻専修大学において、炊き出し等のボランティア活動を実施(4/12)	○横浜町を通し日本赤十字に寄付(3/31) ○秋田県大潟村「菜の花まつり」にて、応援屋台「ほたてやき」利益の一部から大潟村を通し寄付(5/5)	0175-78-2011 (宮 桂子)
のしろ白神の道	○原発事故の影響で風評被害に苦しむ福島(会津若松)の名産品をイベントに併せて販売するとともに、募金活動により義援金を集めた。(5/16)	会津若松名産品販売の売上金及び義援金を寄付(5/21)	0185-52-4617 (能登 祐子)
ふくしま浜街道ハッピーロード	冊子「道路」2011-4月号にて以下の内容を発信 ・震災、原発の影響による地域の被災状況 ・これまでのNPO活動により築きあげてきた人とのネットワークにより、物資輸送もしていただき、大熊町の避難所に届ける ・このような体験を踏まえ、人々とのつながり、きずなを実感することができたと語っている		090-1938-2046 (西本 由美子)
越後妻有里山回廊	・長野県北部地震関連 ○十日町市や津南町の地元集落を訪問し、住民から聞き取りを実施。要望のあった(家の片付け等)支援活動を継続的に実施している。 ・東日本大震災関連 △復興のための基金を設立し、避難している小中学生との交流事業(サマーキャンプ等)を検討中(今夏)		025-595-6310 (NPO法人越後妻有里山協働機構:ウォラル美和)
日本の原風景「枝垂れ桜の咲く里への回り道」	○イベントに避難してきている被災者も参加(4/17)	○イベントに併せチャリティ茶会を開催し、その茶席料を全て糸魚川市を通じて被災者へ寄付をした(4/17)	(塚越 秋三)
北アルプス大展望最長最古の塩の道ルート	○パートナーシップの中のNPOが、福島に物資を提供。	○イベント時に特産品を販売し、義援金に充てた。また募金活動により義援金を集めた。(5/3~5)	(野本 幸)
飛騨地域風景街道	○東北地方整備局にウェットティッシュを段ボール11箱提供 ○仙台市にウェットティッシュを段ボール1箱提供		世界遺産合掌街道実行委員会 (山口)
新世紀くらわんかストリート	○街道沿いの軒先や駐車場等で、毎月第2日曜日に開催する五六市(青空市)において、義援金の募金活動を行った。(4/10)	○東日本大震災緊急支援のため義援金として、枚方宿地区まちづくり協議会からくらわんか五六市実行委員会から(3/13開催分)、(4/10開催分)を日本赤十字社に寄付をした。(3/15・4/11送金)	枚方宿地区まちづくり協議会事務局 枚方市役所まちづくり推進課 072-841-1221
愛宕街道(京都鳥居本)	○京都府が福島県を支援する関係から、京都府が支援物資を集める仕分け作業のボランティアとして当パートナーシップから2名が2日間参加(4月29日、5月1日)した。	○東日本大震災緊急支援のため義援金として当パートナーシップから日本赤十字社に寄付をした。(4/10)	浦尾:075-921-3761

ルート名	支援活動の概要(予定含む)		連絡先(担当者名)
	活動	寄付	
西の鯖街道		○東日本大震災緊急支援のため、西の鯖街道協議会 京北食の連絡協議会がイベント会場で義援金を訴え、京都新聞社社会福祉事業団を通じて寄付をした。(3/20)	0771-75-0815 西の鯖街道協議会 事務局長 中川 幸雄
しまなみ風景街道		○イベント(しまなみ縦走2011)において、被災した地域に対する義援金の受付を実施。東日本大震災緊急支援のため義援金として、日本赤十字社に寄付をした。	瀬戸内しまなみ海道振興協議会 0848-25-7184 貞重 裕樹
南いよ風景街道	○岩松町並み保存会(企業組合いわまつ)ではどぶろく製造販売を行っているが、「なっそ東北！一杯支援」と題し、全国どぶろく研究大会等で情報交換してる今回被災した岩手・宮城のどぶろく製造者からどぶろくを買い取り、販売している。	△缶バッチを買っていただき売り上げ全額を寄付する予定。	宇和島市津島支所 教育係 森田 0895-49-7060【直通】
日南海岸きらめきライン		○『春のフラワーショー』オープニングイベントにてみやざき花の女王や、公園スタッフ一同による、東北地方太平洋沖地震復興支援のための募金活動を実施(3/20)	0985-25-7410 ((財)みやざき公園協会 課長 谷越 衣久子)
ながさきサンセットロード	○長崎・居留地チャリティーバザール(平成23年5月22日)		長崎居留地ネットワーク (梅元建治)
	○義援金の呼びかけ		NPO法人軍艦島を世界遺産にする会 (坂本道徳 095-895-9800)
	○毎月第2日曜、海岸清掃ボランティアの際に参加ボランティアの方へ義援金の呼びかけをしている。		NPO法人長崎ビーチサービス (草原美紀 095-862-1173)
	○チャリティアクトNBCへ出演(合唱団)し、義援金の呼びかけ等を行った。(5/8) ○長崎・居留地チャリティーバザール(平成23年5月22日)		大浦青年会 (桐野耕一)
		○東日本大震災緊急支援のため義援金として、社員の積立金(若葉会)より長崎新聞社を通じて寄付した。(3/16)	榊上滝佐世保支店 0956-23-3311 原口一夫
		○東日本大震災緊急支援のため義援金として、大栄開発(株)社員一同から日本赤十字社に寄付をしました。(3/29)	0956-31-9358 (大栄開発(株)社員一同)
		○義援金として当パートナーシップから長崎新聞社に寄付をした。	ボランティアグループ川西會 (田口政敏) 0956-72-0220
	○まつりにおいて、義援金箱を設置し協力を依頼(4/23~4/24)	○義援金として当パートナーシップから長崎新聞社に寄付をした。(4/27)	まつり実行委員会 (柴山政博)0956-72-1111
		○義援金を当パートナーシップから西海市役所に寄附した。(3月中旬) ○道の駅へ募金箱を設置している。	0959-33-2303 (西海市観光協会)
		○義援金として 日本赤十字社に寄付をした。	阿蘭陀ロード守隊 Tel 0950-24-2223 担当者 澤田 幸則
	○義援金として 長崎新聞社、長崎県建設業協会に寄付をした。	増山建設株式会社 Tel 0950-53-0522 担当者 榊屋 智幸	
	○義援金として 平戸市商工会、長崎県建設業協会、日本赤十字社に寄付をした。	(株)恋塚組 Tel 0950-57-1850 担当者 恋塚 晃一	
北九州おもてなしの“ゆっくりかいどう”	○チャリティーイベント「長崎街道起点ちや室町」の開催(5/1) ・チャリテライブ・募金活動 ・チャリテフードコーナー ・チャリテフリーマーケット	○フリーマーケットの出店料、フードコーナーの売り上げ、集まった募金を義援金として寄付する。	093-582-3888 (北九州市道路計画課 石井慎二)
九州横断の道 やまなみハイウェイ		○支援物資として米60kgとダンボール18箱分の衣類を送付した	中九州横断道路の早期完成を願う女性の会
かごしま風景街道 (桜島ブロック)	○NPO法人桜島ミュージアムが管理している桜島ビジターセンターにおいて入館者に対して義援金を募っておりました。	○義援金を日本赤十字社へ寄付した	099-245-0100 (NPO法人桜島ミュージアム: 福島)
玄界灘風景街道	○佐賀県民災害ボランティアセンターの救援物資の仕分け作業ボランティア(3/20)及び同センター呼びかけのボランティアに積極的に参加(随時)	○事務所に募金箱を設置(随時)	NPO法人唐津環境防災推進機構 KANNE 0955-80-7060 藤田 和歌子
琉球歴史ロマン街道 「宿道」	△沖縄県青年会議所からの要請により、パートナーシップのメンバーで被災地で物資運搬を行う為の自転車(3台)を準備し提供予定。 ○沖縄県名護市からの要請により、パートナーシップのメンバーで被災者が沖縄県名護市へ避難された方へ、被災者の交通手段として自転車2台提供済み、引き続き28台準備、提供予定。		0980-54-3169 NPO法人ツール・ド・おきなわ協会 (副理事長 森 兵次)

風景街道地方協議会及び連絡窓口はこちらへ

風景街道の活動を積極的に支援するために、各風景街道地方協議会に連絡窓口を設置しております。

掲示板利用の登録や、日本風景街道に関するご相談等がございましたら、風景街道地方協議会の連絡窓口までご連絡下さい。

◆風景街道地方協議会の連絡窓口一覧

担当部署	担当者氏名	電話番号
シーニックバイウェイ北海道推進協議会 (北海道開発局 建設部 道路計画課 内)	種蔵 史典	011-709-2311(代表) (内線 5357)
東北風景街道協議会 (東北地方整備局 道路部 道路計画第二課 内)	宍戸 英雄	022-225-2171(代表) (内線 4256)
風景街道関東地方協議会 (関東地方整備局 道路部 道路計画第二課 内)	吉沢 仁	048-601-3151(代表) (内線 4252)
北陸 風景街道協議会 (北陸地方整備局 道路部 道路計画課 内)	遠藤 正樹	025-280-8880(代表) (内線 4213)
風景街道中部地方協議会 (中部地方整備局 道路部 計画調整課 内)	服部 一宏	052-953-8171(代表) (内線 4312)
近畿風景街道協議会 (近畿地方整備局 道路部 地域道路課 内)	田島 祐介	06-6942-1141(代表) (内線 4612)
中国地方風景街道協議会 (中国地方整備局 道路部 地域道路課 内)	妹尾 圭人	082-221-9231(代表) (内線 4613)
四国風景街道協議会 (四国地方整備局 道路部 地域道路課 内)	渡辺 修身	087-851-8061(代表) (内線 4612)
九州風景街道推進会議 (九州地方整備局 道路部 道路計画第二課 内)	鈴木 昭人	092-471-6331(代表) (内線 4252)
沖縄地方風景街道協議会 (沖縄総合事務局 開発建設部 道路建設課 内)	末光 勇次	098-866-1914(代表) (内線 4353)

【ご意見お寄せください】

日本風景街道だよりは、地域の皆様へ様々な情報を提供することを目的に年4回程度発行する予定にしています。掲載内容などご意見・ご感想がございましたら、下記までお気軽にお寄せください。

日本風景街道だより

発行：国土交通省道路局環境安全課道路環境調査室
東京都千代田区霞が関2-1-3

TEL: 03-5253-8497 FAX: 03-5253-1622

担当: 本田、青柳

<http://www.mlit.go.jp/road/sisaku/fukeikaidou/index.html>